# に思うこと

## 代表者に聞く

美郷町の均衡ある発展を願う会

代表　奥山　清順さん（美郷町安城寺）

# まちづくりについて議論し行政に提言し、協力していこう

「（合併により）私たちが心配しているのは、新しい町ができたからただ単に地域の均衡ということだけではなく、いろいろな問題についての均衡が必要ではないのかということで、同じ考え方を持った人たちが一緒になって集まってみようという話からはじまり、会の設立になった」と話すのは、美郷町の均衡ある発展を願う会代表の奥山清順さん（美郷町安城寺）。

この「美郷町の均衡ある発展を願う会」は、美郷町が発足して1カ月余りが経過した昨年12月16日、まちづくりに関心のある町内3地区の有志で立ち上げた会で、（行政に）提言するものは提言して、協力できるものは協力していこうと、現在は約50人の会員で活動を続けています。

会の目的は「新しい町の誕生を機に、自分たちの地域に住んでいるみんなが『安心して、希望をもって暮らし、住民の声が行政に届き、理解し協力し、ここに住んで良かった』と思えるまちづくりの一助になる活動に取り組んでいく」ということ。「新しい町なので今までにない新しい問題が出てくると思うが、その時にどうしていくかということについて、住民の立場で私たち自身が検討した中身を（町長に）聞いてもらうような機会を設けよう。そのためには（会の）内部で意見交換をしてその中からテーマを見つけ、そのテーマについて町長と話をしてみたい」ということでことしの2月、「町長と語る会」をはじめて企画し、これまでに2回開催。今後も3回目の開催に向けて意見交換会を開こうと計画しているということです。

これまでに取り上げたテーマは、町長が掲げた「融和」の姿勢とその具体策、住民意識の集約（方法）、農業振興、上下水道に関連した環境改善などで、「例えば米の問題一つとっても抱えている問題が大きく、またたくさんあり、かなり漠然とした話にしかならないが、それでも議論をしていかないといけないのではないか。ただその時の流れに任せて何も議論していかないということではまずいのではないかということで、日々田んぼで作業をしている者たちが素直な気持ちで発言していかないといけない」と、米の問題の時はみんなが思い思いの発言をし、町長と意見交換ができたと話します。

このほかにも、学校の統廃合の問題や子育ての問題、新庁舎建設の問題などいろいろな課題があり、今後こうした地域の大きな課題について考えていきたいということですが、「そうした課題について会員がみんなで検討した結果を提案し意見を述べていくが、それらに対する町の対応がなかったとしてもそれを追求していくということではない。ただ、そうした課題や意見があるということを（町長など町の執行部に）聞いてもらう機会をつくり、課題を認識してもらい、少しでも考えてほしいという思いがある」と奥山さん。また、「若い人たちはみんな毎日の暮らしで忙しいだろうが、これからの町のことを心配している人はたくさんいると思うので、こうした取り組みに若い人たちがもう少し参加してほしい」とも。

「私たちは行政を何らかの面でサポートできることがあればという気持ちで、町の発展を願って会員みんなが活動している。本当に純粋な気持ちで『良いまちづくりをしたい』と思って活動している」との言葉に、これからの活動への強い意欲が感じられました。

# まちづくり

## 町内2団体の

# まず自分たちの住んでいる地域を知ることがまちづくりの第一歩

「はじめは各地区でやっている青年会活動の延長という認識ではじめた活動で、まず活動している自分たちが楽しいことが一番大事で、そして私たちが楽しいと思っている情報を受け取る人たちもまた楽しいということが何をやるにしても大切。それが私たちの活動の基本だった」と話すのは、地域づくりマスター会代表の髙橋猛さん(美郷町飯詰)。

劇団「ゼンマイ座」の1コマ

この「地域づくりマスター会」は、平成14年7月、住民による手づくりの村おこしや地域づくりをしていこうと旧仙南村の住民有志で組織した会で、現在は約30人の会員で活動を続けています。

会の主な活動は大きくわけて2つあり、一つは会員自らが劇団員となって、親子や家族のきずなどをテーマに公演する劇団「ゼンマイ座」の活動。会を立ち上げて最初の活動がこの「ゼンマイ座」の公演で、以来年1回のペースで公演を続けています。

そしてもう一つは「まちづくり勉強会」の開催。「ゼンマイ座の活動だけではなく地域のために何ができるかを考えたとき、意外なことに自分たちの地域のことを結構知らないことに気づいた」といいます。そのため、あえて東京から講師を招くなどして、自分たちの地域のことを学び、再発見する活動を地道に続けてきています。この「勉強会」は誰でも参加することができ、〝将来的にこんなまちの姿がいいね〟というような意見交換をするなどして、ある程度まとまったら行政の方に提言するなどの活動を行った経緯もあるということです。

こうした活動を発展させて「実際に自分たちでイベントの企画や運営などをやっていければいいとは思っていたが、なかなかそこまではできなかった」というが、旧仙南村で昨年開催した村最後の夏祭り「メモリアル仙南」というイベントの企画に関わり、地域のいろいろな団体の協力を得て成功を収めるなど、活動の幅も徐々に広げつつあり、自分たちの住むまちやまちづくりについて考えるよい機会となっていると思うと話します。

美郷のまちづくりを進めていくうえで必要なことはと問うと「(この会を立ち上げたときからやってきているように)まず自分たちの住んでいる地域を知ることが必要で、それがまちづくりの第一歩だと思います。新しいことをすぐにやろうとしても無理でしょうからまずそこから始まって、各地域の良いところをどう活かしていけるのかということかなと思います」と髙橋さん。

美郷町発足後はじめて開催した今年の総会は、全町の地域づくり的な団体へ参加を呼びかけましたが、「その時はまだ私たちの活動を知ってもらうというようなアピールの段階だったので、これから本当の意味で全町的に人の集まる場にしていきたい」と、会のさらなる活性化を目指して模索している様子でした。

地域づくりマスター会

代表 髙橋　猛さん(美郷町飯詰)